

◆自民党こまつ◆



宮西健吉 委員

◆私立こども園等施設整備費補助金

Q 犬丸保育園の改築費、国、県、市の金額は。

A 5、300万円を見込み、市の負担は1、700万円余。国、県で1/2、市1/4、事業者1/4の割合で負担。

Q 概算要求はいつ頃か。概算要求は設置場所が未決定でも出来るのか。

A 令和2年8月頃に各園に整備計画の照会をした。概算要求は定員を元に補助基準を定めるため、場所決定は必要ではない。

Q 同意が得られない場合、市が対応してほしい。市に不信感があり校下地域のために努力、指導を。

A 法人側が場所選定について地元等と話し合いをしており、市は法人側や地元双方の意見を聞き、協議している。

◆ワクチン接種費

Q 市民病院の医師と看護師、コロナの対応をされた方の人数は。

A 医師63名、看護師等366名。コロナ対応は延べ4、383人。

Q 第2報の新型コロナワクチン接種の病院や診療所の場所は。

A 現在調整中であり、決定したら第3報等でお知らせする。

Q 高齢者入所施設の接種場所は。

A 施設等にアンケートを取り、調整中で決定次第、案内する。

Q 接種はいつ頃から始まるか。

A 報道等で4月以降と出ており、そのように広報している。

Q 3次補正の受入医療機関緊急支援事業補助金の対象か。申請の内容は。

A コロナ対応の職員人件費や院内等での診療体制確保等に関する経費を申請した。

Q 対象外の看護師、看護補助の手の手当は。

A 全職員交代で対応しており、手当は全てに支給している。

Q コロナ患者の受入れは市民病院だけか。南加賀で他には。

A 受入れ病院の公表は保健所や県が管理し、判断している。

Q 医師会、薬剤師会、看護師会の連携は取れているのか。

A 医師会が中心となり、ご協力いただいている。

Q ワクチン接種での看護学生の役割は。

A 誘導案内等を医療の知識や心得を学んでいる学生の協力を得て、市民が安心して接種出来るよう準備している。

Q 病院関係で国の助成金の対象外の方に慰労金を市として出すべきでは。

A 現在、構想はないが国等の状況を把握しながら対応したい。

Q ワクチン接種で丁寧な説明を。

A 接種意思は最終的に医師が確認。PCR検査は接種の有無に関わらず、従来どおり医師が判断する。

◆無党派◆



木下裕介 委員

◆防災ひとつくり推進費

Q 現在、防災士のスキルアップ研修は小松防災士の会会員を対象に行われ、未入会の防災士には研修の情報が届かない。せつかくの良い取り組みも対象者全員に伝えなければ意味がない。今後は会員ではない防災士にも市として研修の周知をしていくべきでは。

A 市として、HPやLINEで「防災」などで幅広く市民に呼びかけていく。



橋本米子 委員

◆北陸新幹線建設推進費

Q 新幹線建設の現状と今後の負担金の見通しについて。

A 夏頃に開業予定時期が示される見込みで、現時点で市の負担金額は未確定である。

◆国民健康保険税均等割の軽減策

Q 18歳未満の来年度の軽減は。令和4年度以降も継続を。

A 均等割を1/2にし、低所得世帯は制度適用後さらに1/2とする。小松市国保運営審議会の審議を踏まえ検討したい。



片山瞬次郎 委員

◆福祉タクシー費

Q 福祉タクシーの対象者と範囲の拡充について。

A 身体障害者手帳所持者のうち視覚、下肢、体幹の各障害の1から3級や聴覚障害2級、療育手帳A・B、精神障害者手帳1・2級の方に年間24枚綴りの助成券を交付。医療機関への通院が多い重度の内部障害1級の心臓・腎臓、呼吸器機能障害等がある方に対象を拡大する。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 杉林 憲治
副委員長 片山 瞬次郎
全議員所属

議案第1号 令和3年度小松市一般会計予算について

3DICAAD活用推進費

3DICAAD7台の機器及び、ドローン等デジタル技術の活用研修費等です。資格保有者が適切に配置されるよう配慮を求めました。

職員人件費

令和3年度職員人件費予算額は、一般会計、特別会計、公営企業会計を含め、97億8,470万円余であり、会計年度任用職員を含む総職員数は、1,852人です。職員の雇用環境など更なる配慮を求めました。

令和3年度市税当初予算

令和3年度予算額は、145億1,900万円であり、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、前年比15億3,600万円の減収見込みとのことです。

消防資機材整備費

消防職員用の防火衣の更新費用と、スタンドパイプ式初期消火セットの整備費用です。導入の際には、町内会等への丁寧な説明を求めました。

女性消防士活躍推進費

女性消防士が働きやすい職場環境の整備を目的に、消防本部庁舎に仮眠室・シャワー室が一体となった女

性専用室を設置するものです。女性の活躍に向けた取組は必要なことであり、速やかな整備を求めました。

教育相談費

不登校など問題を抱える児童生徒などの相談を受けて、円滑な学校生活を送れるよう支援する費用です。社会的に自立して生活することが最終目的であることから、支援体制の継続に努めてほしいと求めました。

中学校校舎等改修費

安宅中学校の空調復旧工事及び国府中学校の大規模改造工事の実施設計にかかる費用です。稚小小学校や松陽中学校については、改築等教育環境の実現に向け検討していくとのことであり、スピード感を持って対応してほしいという意見が出されました。

社会教育費雑入

サイエンスヒルズこまつでは、スポンサー広告料を歳入として見込むもので、協力企業を募集していくとのことです。スポンサー企業が増加するような創意工夫を考えるよう求めました。

私立こども園等施設整備費補助金

私立認定こども園等が行う施設整備に対してその費用を補助するものです。

松東地域こども園整備費

金野保育所、瀬領保育所を統合し、令和4年4月の開園に向けて、現在造成工事を進めている施設整備にかかる費用です。統合後の2つの保育所についても地域と協議して有効利用を求めました。

日本遺産サミット開催費

令和3年11月開催となる「日本遺産サミット in 小松」におけるシンポジウム開催などの経費です。

障がい者スポーツ振興費

指導者養成や器具整備にかかる費用で、講習会を開催するなど障がい者スポーツの普及振興に取り組んでいるとのこと。

産業競争力強化費

市内企業の新製品の研究など幅広い支援を行う費用とのこと。

小松産農産物販路拡大費

農産物のブランド化推進、販路拡大のための「小松とま」と「レシピピコンテスト」等の費用とのこと。

議案第2号 令和3年度小松市国民健康保険事業特別会計予算について

令和3年度国民健康保険事業特別会計

歳入予算額は99億8,200万円であり、対前年比2億7,200万円の減少となります。保険料の減収分2億2,982万1千円を基金から繰入れ計上することです。

議案第23号 令和2年度小松市一般会計補正予算(第14号)について

総務管理費寄付金

新型コロナウイルス感染症対策として、企業並びに個人の方から受領した寄付金540万円です。

財政調整基金繰入金

3月追加補正の新型コロナウイルス感染症対策経費の財源として5,280万円を追加計上し、補正後の繰入額を6億100万円とするものです。

児童生徒進学応援金

法人・個人5件の方から頂いた寄附を活用し、準要保護世帯で令和3年4月に小中学校など入学予定の生徒を持つ保護者に進学応援金として、児童生徒一人当たり2万円を支給するものです。

新型コロナウイルス感染症経済対策費

飲食業等賃料支援金Part2は、店舗の用に供する土地、建物の賃料の一部を補助し、事業継続の支援を図る費用とのこと。申請者に対して速やかな支給を求める意見が出されました。

農業施設等雪害復旧対策費

今冬の暴風雪により農業用ハウスのビニール破損などの被害を受けた農業者向けに、国県は緊急支援対策を実施すること。その支援策として、その支援策を活用し、農業用ハウスの再建の支援を行う費用とのこと。



総務企画

委員長	宮川 吉男
副委員長	二木 良攻
委員	竹田 哲平
委員	高野 清克
委員	出戸 仁志
委員	円地 健吉
委員	宮西 靖二

■議案第21号 小松市火災予防条例の一部を改正する条例について

電気自動車に搭載されている電池の大容量化に伴い、充電設備の規制対象を全出力200kWまで上限拡大するものです。また、火災リスク対策とし、安全基準が強化されます。この改正により、200kWまで電気主任技術者による操作が不要となり、急速充電設備の設置拡大が期待されるものです。

■スマート窓ロシシステムの運用開始について

3月1日より住民異動手続きにおいて、ICTを使った「スマート窓ロシシステム」の運用が開始されます。手続きの時間短縮と負担軽減が図られることですが、今後とも本人確認など慎重に行いながら実施していくよう求める意見がありました。

■キッズ・ゾーン設置及び交通安全行事の開催について

市内の2幼稚園を第1号モデル園に指定し、小松市で初めての「キッズ・ゾーン」を時速30キロの速度規制を行う「ゾーン30」と併せて設置します。また、園児らによる交通安全啓発行事が実施されます。

ゾーン以外の場所でも道路の白線が消えかかっている箇所があるので、引き続き、県警や道路管理者に対し安全な道路環境の整備を要望してほしいとの意見がありました。

■「仮称こまつ地域交通プラン(案)」について

国の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、策定するもので、地域住民の移動手段の確保と効率的で持続可能な交通手段への転換により、みんなで支え合う地域交通を実現するものです。

プランに基づいた持続可能な地域交通の実現を求める意見がありました。

■EVバスについて

空港連絡線で運行されているEVバスに不具合があり、3月15日を期限に購入先の車両メーカーによる代車にて運行をすることです。

今後とも不具合等について、車両メーカーと相談し、対応するとともに、その都度、議会へ報告するよう求めました。

福祉文教

委員長	吉本 慎太郎
副委員長	岡山 晃宏
委員	吉田 寛治
委員	新田 寛之
委員	吉村 範明
委員	橋本 米子
委員	灰田 昌典

■新型コロナウイルスワクチン接種について

市民病院では県からデイープリーダーが配置され、院内にプロジェクトチームが結成されています。今後、接種シミュレーションを実施し、3月中旬に医療従事者等への接種が開始される予定です。

妊婦や基礎疾患がある方などを除く職員が接種を希望しており、ワフチンは2回接種する必要があることから、スケジュールリングをしっかりと行い、分かりやすい周知を求める意見がありました。

■新型コロナウイルス感染症への対応について

2月1日にワフチン接種専門チームが設置され、チラシで現時点の情報を周知するとともに、医療関係機関等との調整を順次行っているとのことです。

周知について、テレビ等では副反応のリスクばかりが取り沙汰されて

いることから、副反応等の発生状況とともにワフチンの効果や安全性についての情報も掲載し市民が納得して接種出来るように周知してほしいとの意見がありました。

■重層的支援体制整備事業について

地域共生社会の実現に向けて、国が目指す総合的な相談支援体制を構築するもので、相談支援体制のさらなる充実と強化を図るものです。

これまでより相談範囲が広がることになり、個人情報取り扱いには引き続き十分注意してほしいという意見や、またこの制度は、行政の部署の垣根を超えた市民にとって大変良い取組であり、今後も推進してほしいという意見がありました。

■サイエンスヒルズこまつ科学賞規程の一部改正について

義務教育学校を授賞対象に加えるとともに、科学賞の種類の一つであるレコード賞をホープ賞に改めるものです。ホープ賞への改正は、記録に終わらずこの賞の受賞を契機にさらに将来に望みをかけるような人になってほしいという想いを込めていることです。

途中での制度改正がないよう、規程制定の段階で精査してほしいという意見が出されました。

経済建設

委員長	南藤 陽一
副委員長	東 浩一
委員	木下 裕介
委員	梅田 利和
委員	片山 瞬次郎
委員	川崎 順次
委員	杉林 憲治

■議案第19号 小松市建築基準条例の一部を改正する条例について

石川県内統一で、壁のないカーポートの床面積の算定方法が定められ、面積の取り方が大きくなったことから、今回条例対象とする自動車車庫の床面積の対象面積を50㎡以上から100㎡以上に変更することとします。自動車車庫を建築する際の規制条件に反映されるものですが、実質上、これまでの条例適用物件が不利とならないように配慮しているとのことでした。

■こまつクマ出没防止プランについて

令和2年度において、クマの目撃が例年の5倍以上と多数報告され、今後の対策方針について、専門家を交え会議を重ね、こまつクマ出没防止プランを策定したとのこと。本年度の状況を踏まえ、人身被害の防止及び人と野生獣の棲み分けの実

現を目指し、ゾーニング管理・配備体制・普及啓発の3つの施策で構成されているとのこと。

侵入防止柵を整備する際は、防止柵設置によるクマの行動範囲の変化が予想されることから、行動を注視して欲しいとの意見や、餌場の整備については、令和3年からポット苗の育成、餌場調査、候補地選定を行い、令和7年から植栽、餌場作りをするとのこと。専門家の意見を聞きながら、植栽する苗の種類などを考慮して、出来る限り早く餌場整備を行えないかとの意見が出されました。

■(仮称)歌舞伎のまちギャラリープンについて

石川県こまつ芸術劇場うららの一部を改修し、曳山子供歌舞伎や子供歌舞伎勸進帳など「歌舞伎のまち小松」の歴史や成田屋と小松の絆を、パネルや大型映像で示し、團十郎さんや成田屋にまつわる品々も展示されるとのこと。また、当ギャラリーのオープンを合わせて、ぶっさんの営業も再開すること。ギャラリーの大型映像や展示パネルの内容については、必要に応じて適宜更新出来る形にして欲しいとの意見が出されました。

特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策特別委員会

委員長	灰田 昌典
副委員長	梅田 利和
委員	新田 寛之
委員	片山 瞬次郎
委員	出戸 清克
委員	二木 攻
委員	川崎 順次

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点では、小松基地における訓練計画はないとのこと。訓練の実施については、小松市民にとって関心の高いことであることから、今後とも、速やかな情報提供に努めるよう求めました。

■令和2年度3四半期までの緊急発進実施状況について

1月22日に統合幕僚監部から発表された資料によると、緊急発進回数は544回であり、前年度の同時期と比べて198回減少したとのこと。小松基地が所属する中部航空方面隊は26回、前年度同数でした。

■小松空港利用状況について

新型コロナウイルスの影響により、国内線の12月の利用状況は前年同期と比較して、44%と低水準です。国内線については、GOTOトラベルキャンペーンによる経済効果が出てきたところでしたが、昨

年12月下旬頃から中断となり、今後利用状況が悪化することが予想されているとのこと。

なお、国際線は現在も全便運休している状況です。国際貨物便の利用状況については、新型コロナウイルスの影響により4月から一貫して減少していましたが、8月から持ち直し、12月は前年同期と比較して117.3%とのこと。

■県立航空プラザについて

航空プラザの昨年4月から本年2月22日現在の入館者は8万人弱であり、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年と比べて大幅に減少する見通しとのこと。

今後、コロナ禍の収束で来館者数が大きく回復することを期待するとともに、県との連携により航空プラザの充実等に努めていくよう求めました。

■最後に

1月下旬に空港エターミナルビル内に新レストランがオープンしました。コロナ禍の中での明るい話題であり地域住民からの利用にも期待を寄せるものです。なお厳しい状況が続く中、今後とも空港利用客の利便性のため、県との情報共有、補助金等の情報入手に一層努めていくよう求めました。